

一学期後半教育研究も本格的にスタート

校長 藤井 和彦

町木ヤマボウシの純白が色濃くなった緑の中に映える六月となりましたが、五月と打って変わり、今年は大変さわやかな涼しい日々が続いています。

先日の運動会は大変お世話になりました。「高学年児童は特に責任感をもって行動し、顔つきにも緊張感があり、成長が感じられた。」「児童が自主的に係活動に取り組み、応援の態度もよかった。退場した時の『頑張ったね。』の掛け声がうれしかった。」「徒競争を走り終えた子供たちがハイタッチをしていたのがとてもすてきだった。みんなこの二人のように素敵な友情を育んでほしい。」など、事後アンケートに多くの感想をいただきました。ありがとうございます。

一学期の学校生活も後半に入り、児童は今日も黙々と学習に励み、学校の教育研究も本格的にスタートする時期となりました。先日の教育行政の学校訪問では、「出会った子どもたちがよく挨拶をしてくれますね。」「先生方の表情がいいですね。」「児童と担任の先生の関係が大変良好であることが学級の雰囲気わかりますよ。」「しっかりととした落ち着いた雰囲気での授業が行われています。」「などの声もいただきました。

本校で取り組む教育研究は生活科(低学年)と総合的な学習の時間(中・高学年)です。この数年の間「神石の自然(帝釈峡の生き物、植物)」「神石の特産品(なます・はちみつ・豆腐・「オーネ)」「神石の名所(帝釈峡・馬乗りの滝)」などを教材化し、地域学習を行ってきました。

それらの経験を踏まえ、今年度も「町探検」「神龍湖の自然を守る」「私の神石く神石のかがやきを広げたい」と題して、地域の公共施設、商店、農家やぶどう園等を訪問し、それぞれの工夫や努力、苦労等を学ぶとともに、地元を活性化させようとする方々への感謝や地域を愛する気持ちを抱くことのできるような学習をさせたいと考えています。何かこの迷惑をおかけするところがあるうかと思いますが、ぜひご理解いただければ幸いです。